※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 124

【様式２】

エントリー学校名： 富山県立中央農業高等学校

活動名：高校における特別支援教育　～外部との連携を密に指導指針を構築～

解決すべき課題：

本校には、人と関わることが不得手な生徒や、心ない軽率な言動で周囲から反感をかってしまう生徒、運動が極端に苦手だったり手先が不器用な生徒が一定数在籍している。発達障害傾向がその要因になっていると考えられるケースもあり、学校生活においては集団活動に苦心することが多い。

また高校の中には多岐に渡る進路指導に苦慮している実情があることから、就職・進学指導においても困難を要することがある。

外部の専門家とともにチーム学校として個別支援（特別支援教育）に取り組むことで、本校における教育活動の指針を求めることができるのではないかと考えた。

目標・方針：

① 多角的な視点の中に特別支援の観点（生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び支援を行うもの）もしっかり取り入れることで、困難を抱える生徒に対して効果的な指導が行えるのではないか。
② 外部の特別支援に関する専門家の協力を得る。
③ 校内で話し合い、組織的にすすめる。

活動内容：

H.３０年度より、特別支援の取組を本格的にスタートした。

R2 年度の活動

○５月：個別支援委員会にて協議し、今年度のキャリアコンサルタント（就労に困難を持つ若者への支援の専門家）の支援は体育実技とする。（昨年度までは農業実習において支援）
○6 月～：キャリアコンサルタント・高等学校巡回指導員（※１）が体育実技を見学。（月１回程度）
○8 月：就職に不安を抱える生徒について、富山県キャリア教育アドバイザー（※２）のアドバイスを受ける。
○9 月：サポステとやま、ヤングジョブとやま特別支援担当者に、高校での特別支援の生かし方について相談
○10 月：就職に不安を抱える生徒について、サポステとやま・ハローワークよりアドバイスを受ける。
○10 月：個別支援委員会にて、就職に不安を抱える生徒への対応について協議
○10 月：キャリアコンサルタントより、これまでの支援から見えてきた現状と課題についてご意見をいただく。
○10 月：外部専門家との今後の関わりについて、個別支援委員会・校務運営委員会にて検討。
※１：発達障害を含む全ての障害のある生徒を支援するために派遣される特別支援教育の専門家
※２：求人先の開拓を目的として県で採用されたキャリア教育の専門家。個別の相談にも応じる。

活動の成果：

・体育実技についての専門家からの指摘

球技では適切なタイミングでの指導や声掛けにより運動が苦手にみえる生徒も楽しそうに参加、球拾いの際の生徒同士の助け合いに対しては教師が認める場面もあり、心の成長にもつながっていると思われる。

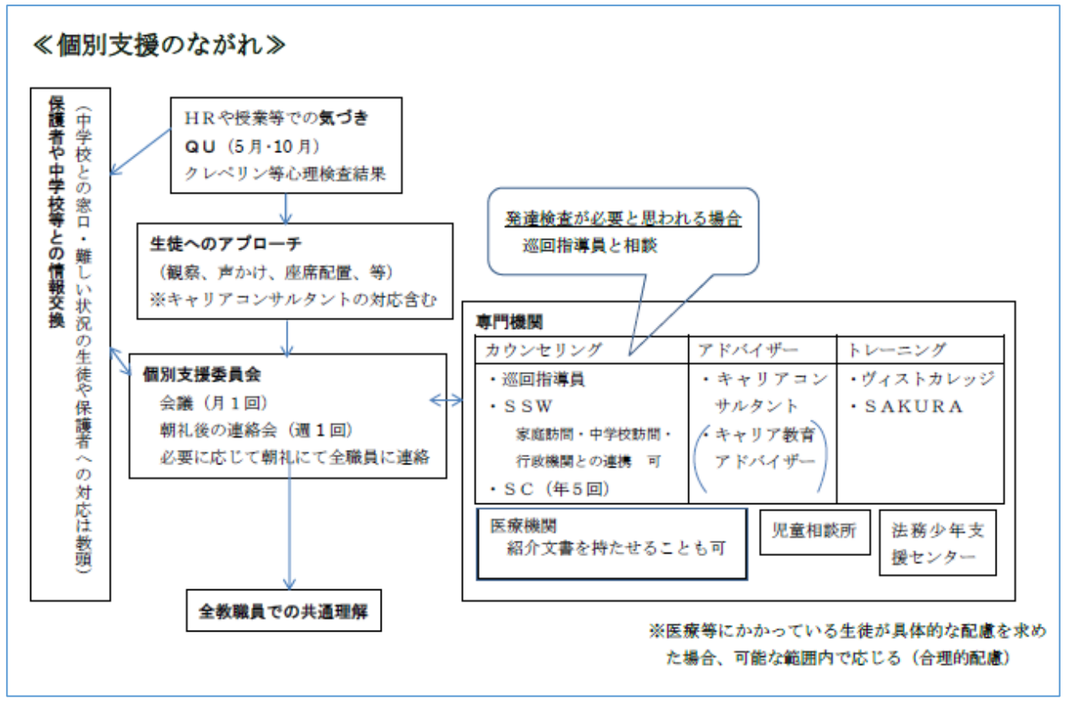
マラソンでは、全員に一律の目標タイムが示されてそれをクリアできなかったら補習が与えられるというプレッシャーを課されており、発達障害のある生徒では頑張りすぎたり『NO』が言えなかったりするので、プレッシャーが増して追い込むことになって心の成長によいとは思えない。メリットとデメリットの比較を整理する必要がある。

・困難を抱える生徒の就職支援について、専門家と校内の意見に相違がみられた。

専門家は仕事が長続きすることに価値を置き、抱える困難については試験を受ける前に就職先に伝えて理解してもらった上での採用を目指す。学校は生徒の意思を尊重してチャレンジの機会を与えることに価値を置き、個人情報保護の観点からも試験を受ける前には抱える困難について就職先には伝えない。

本校では就職しても早期に離職する生徒が少なくないことから、さらなるキャリア教育の充実を進めるとともに、自己理解を推進し適性を知るためにも特別支援の観点を生かした支援の継続が必要と考えられる。

・日常の指導からはみ出してしまう生徒（一斉指導についていけない、提出物が出せない、自分の思いを表現できないなど）に対し外部支援を積極的に入れることで、問題が大きくなる前に対応できるようになってきた。
・本校は寮を有する農業単独校で、様々な活動の中で社会人としての資質を身につけてきた。昨今、生徒の個性の幅が広がり個別の対応に追われる中で、本校の機能を十分に生かしきれていない傾向がうかがえたが、専門家の指摘により、本校には生徒の成長を促す機能が多岐にわたりあることを再確認させられた。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・外部の専門家の助言を積極的に取り入れ、開かれた取組をしている。
・個別支援委員会や教職員研修など、部署を横断しての検討や学びの機会がある。
・本校本来の活動において、教師と生徒、生徒同士の信頼関係が構築され、教育活動の土台となっている。
・課題を学校全体で共有し、必要な外部の力を借り、柔軟なチーム学校として取り組んでいる。